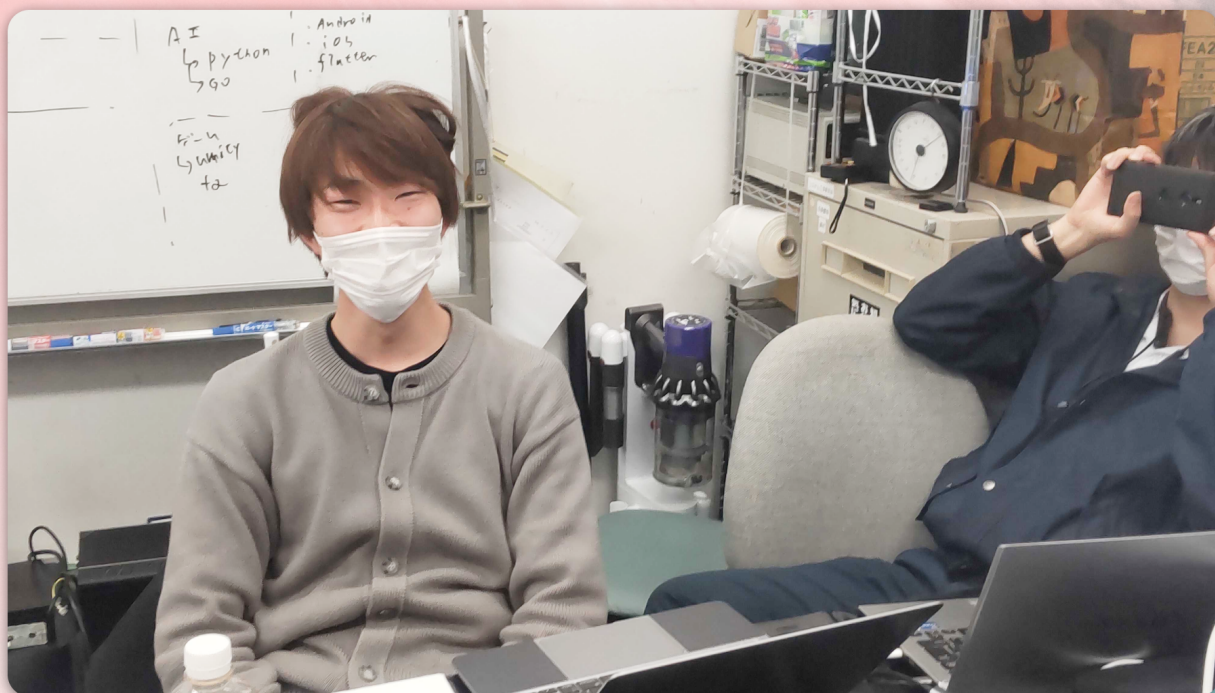


シス研の技術本 テスト作成 表紙



目次

第 1 章	これは chapter	2
1.1	これは section	2
第 2 章	これは chapter	4
2.1	これは section	4
第 3 章	これは chapter	6
3.1	これは section	6
第 4 章	これは chapter	8
4.1	これは section	8
第 5 章	これは chapter	10
5.1	これは section	10
第 6 章	これは chapter	12
6.1	これは section	12
第 7 章	これは chapter	14
7.1	これは section	14
第 8 章	これは chapter	16
8.1	これは section	16

1

これは chapter

1.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

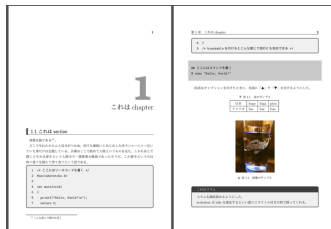
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 1.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 1.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

2

これは chapter

2.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

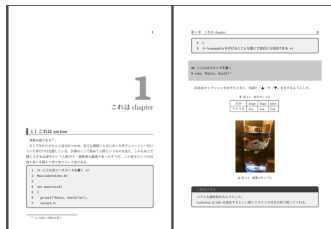
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 2.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 2.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

3

これは chapter

3.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとうと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

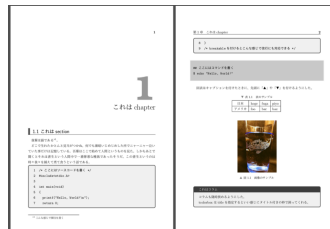
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 3.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 3.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

4

これは chapter

4.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

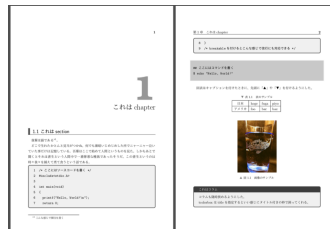
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 4.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 4.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

5

これは chapter

5.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとうんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

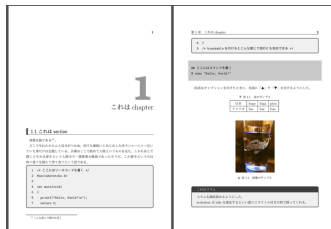
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 5.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 5.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

6

これは chapter

6.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

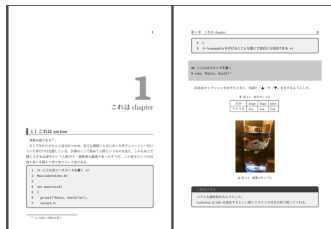
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 6.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 6.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

7

これは chapter

7.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

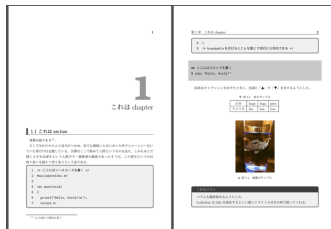
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 7.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 7.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。

8

これは chapter

8.1 これは section

我輩は猫である*¹。

どこで生れたかとんと見当がつかぬ。何でも薄暗いじめじめした所でニャーニャー泣いていた事だけは記憶している。吾輩はここで始めて人間というものを見た。しかもあとで聞くとそれは書生という人間中で一番獰悪な種族であったそうだ。この書生というのは時々我々を捕えて煮て食うという話である。

```
1  /* ここにはソースコードを書く */  
2  #include<stdio.h>  
3  
4  int main(void)  
5  {
```

*¹ こんな感じで脚注を書く

```

6    printf("Hello, World!\n");
7    return 0;
8 }
9  /* breakable を付けるとこんな感じで改行にも対応できる */

```

```

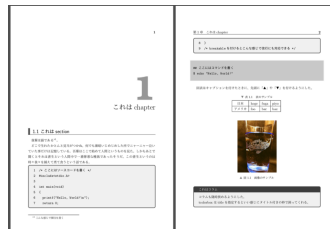
## ここにはコマンドを書く
$ echo "Hello, World!"

```

図表はキャプションを付けたときに、先頭に「▲」や「▼」を付けるようにした。

▼ 表 8.1 表のサンプル

日本	hoge	fuga	piyo
アメリカ	foo	bar	baz



▲ 図 8.1 画像のサンプル

これはコラム

コラムも随時挟めるようにした。

tcolorbox は title を指定するといい感じにタイトル付きの枠で囲ってくれる。